

【松阪市】日本語指導ボランティア募集!



外国人児童生徒のための 初期適応支援教室「いっぼ」指導スタッフ

松阪市の「いっぼ」教室では、来日して間もない外国人児童生徒が、日本語による基本的な日常会話やひらがな・カタカナの読み書き、日本の学校生活や習慣等を学んでいます。異文化をもつ外国人児童生徒とのふれあいから、教育の楽しさを感じてみませんか? 多文化共生社会の未来のため、あなたの力を貸してください。

初期適応支援教室「いっぼ」とは…

- 対象: 松阪市内の小中学校に在籍していて、ひらがな・カタカナの読み書きができない、基本的な日本語による日常会話ができない外国人児童生徒。
- 場所: 松阪市子ども支援研究センター2階(松阪市川井町 690-1)
- 実施日・時間: 月～金曜日 8:35～11:00(学校が休みの日を除く)
- 学習内容: ひらがな・カタカナ・小学校低学年の漢字の読み書きや基本的な日常会話を「みえこさんのほんご」(テキスト)を主教材として学習します。

ボランティア活動について

- 週1日、月1日での活動参加も可能です。
- 日本語指導の経験や知識は問いません。
- 60歳以上の方も多数ご活躍されています。
- ボランティアスタッフ登録までの流れ

松阪市子ども支援研究センターに連絡➡いっぼ教室見学及び説明➡スタッフ登録➡活動開始



協力していただける方、興味のある方は、お気軽に連絡ください。

TEL: 0598-26-1900 メール: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp

松阪市子ども支援研究センター 担当: 辻本

【 いっぱボランティアの声 】 2024.9

授業の始めは、生徒と私、お互い少し緊張していますが、勉強を進めるうちに、生徒の笑顔を見ることができるようになるとうれしくなります。授業の終わりに『You are a good teacher.』と言われた時には本当に驚きました。生徒たちのハツラツとした様子、いきいきと希望を持っている様子からは元気をもらいます。自分に良い刺激を与えるためにも、いっぱい大切な時間だと思っています。

毎回、担当する生徒、指導する内容が変わるので、最初のうちは戸惑いましたが、先日約1か月振りに担当した生徒が、その間にとても学習が進み、成長も見られたので、感心し、うれしくなりました。

くしゃみをした私に、その日、担当していた生徒が「だいじょうぶか〜」と、優しく声を掛けてくれたことがとても嬉しく、心に残っています。気遣いの言葉を日本語で掛けてくれたことに感動し、心が温かくなりました。これからも、このような出会いがあることを楽しみに、続けていきたいと思っています。

私は今年81歳になりました。皆さんの迷惑にならないか、爺さんに教わる生徒たちに失礼にならないかと思いつつも、週1、2回教室に顔を覗かせています。ある日こんなことがありました。小6の子に「ある」「ない」を指導していた時です。「本がある」「鉛筆がない」など、いくつかの例を出し合いながら和やかに授業は進み、彼女はよく理解できたようです。その彼女が突然「先生ない」「わたしある」と言い出しました。「先生ない」「わたしある」真面目な顔をして3度「先生ない」「わたしある」と。え？「私になくて6年生の子にあるもの??」彼女は私の顔を見て、そして私の頭を見て嬉しそうに笑みを浮かべながら「先生ない」「わたしある」ム!ム!ム!...お主なかなかやるな〜!

日本語は難しく言葉の壁が立ちばかりです。平仮名、片仮名、漢字、彼らの目にはどのように映っているのでしょうか。生徒とはマンツーマンの対面指導です。合格点をとった時の笑顔は本当に素敵です。彼らは礼儀正しくて、学習意欲旺盛です。その熱意が伝わってきます。教室は賑やかでタガログ語が飛び交っています。Magandang umaga (おはよう) Salamat (ありがとう) Paalam (さようなら) 私の覚えているタガログ語です。

ある日、携帯操作不如意のため携帯ショップを訪れました。対応してくれた若い女性に、「フィリピンの方ですか?」「そうです。」「日本語上手やなあ、どこで勉強したん?」「いっぱいです、いっぱい教室です」「ええ?いっぱい? 私は今、いっぱいで教えとるんや」「私は日本に来た小学1年生のとき、いっぱい教わりました」「日本語じょうずやな」「それからずっと日本にいますから」なんと、こんな出会いがある!流暢な日本語で親切に丁寧に教えてくれた。「ありがとう。Salamat!」彼女は一瞬目を動かして「ありがとうございます。Salamat!」

成長を間近で見られるのは嬉しいことです♡

翌日修了する生徒に休み時間に、『修了おめでとう。でも明日、先生は来られないんだ。』と言うと、『OK』との返事でしたが、帰りの会が終わったあと、私のところへ『先生、ありがとうございました。』とわざわざ言いに来てくれたので、とてもうれしかったです。

いっぱい教室では九九や漢字、音読などのチェックのテストをしますが、担当する子どもが合格して戻ってくる時に嬉しそうにしたり、逆に不合格だった時には苦笑いや恥ずかしそうな表情で戻ってくるのがかわいく、日本語の勉強に一生懸命取り組む子どもたちに自分も励まされます。